

復興庁 コミュニティ研究会

ICTを活用した高齢者見守りと 生活支援型コミュニティづくり



平成25年12月19日

公立大学法人岩手県立大学
社会福祉学部 教授
地域連携本部 副本部長

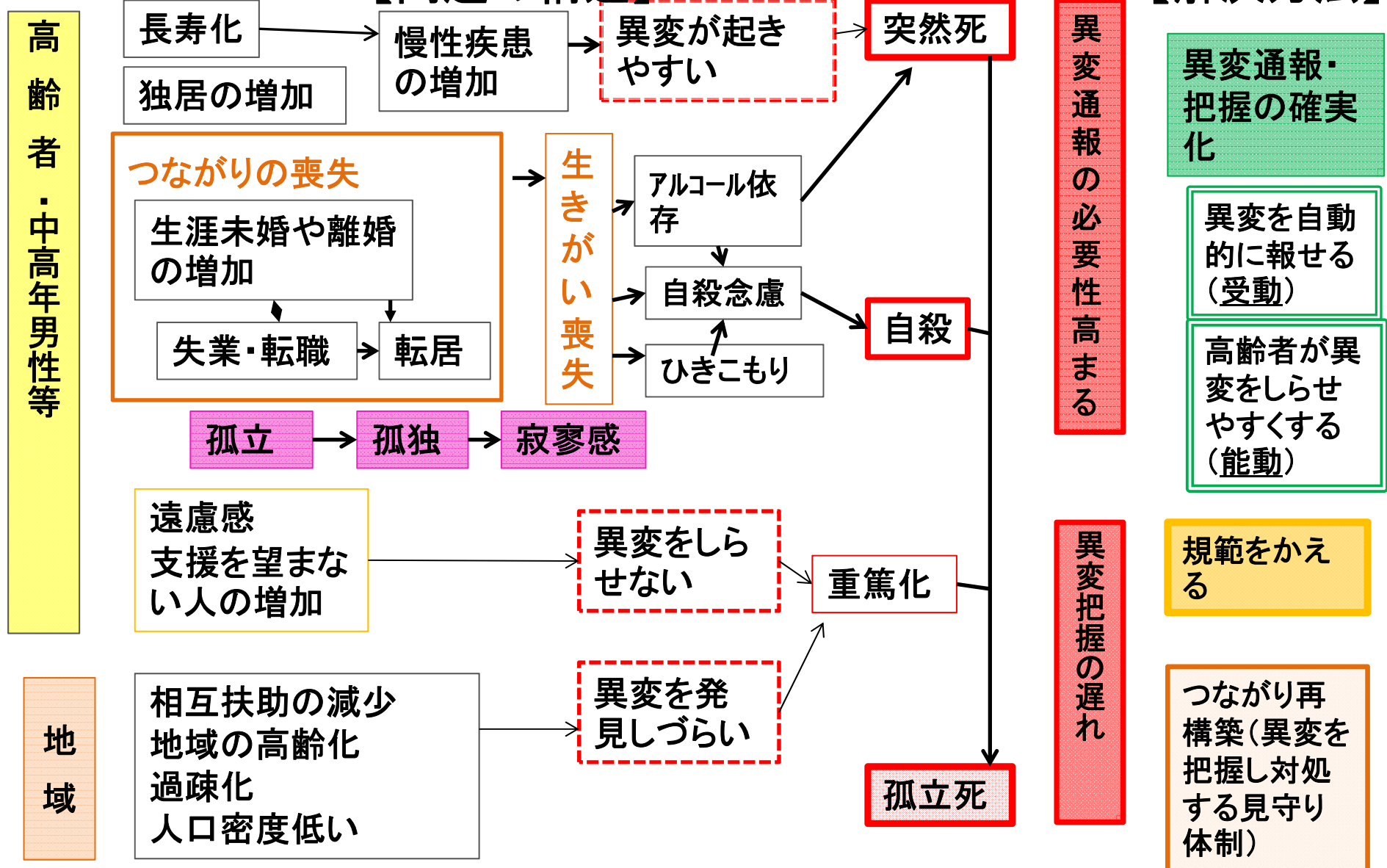
小川晃子

1. 背景

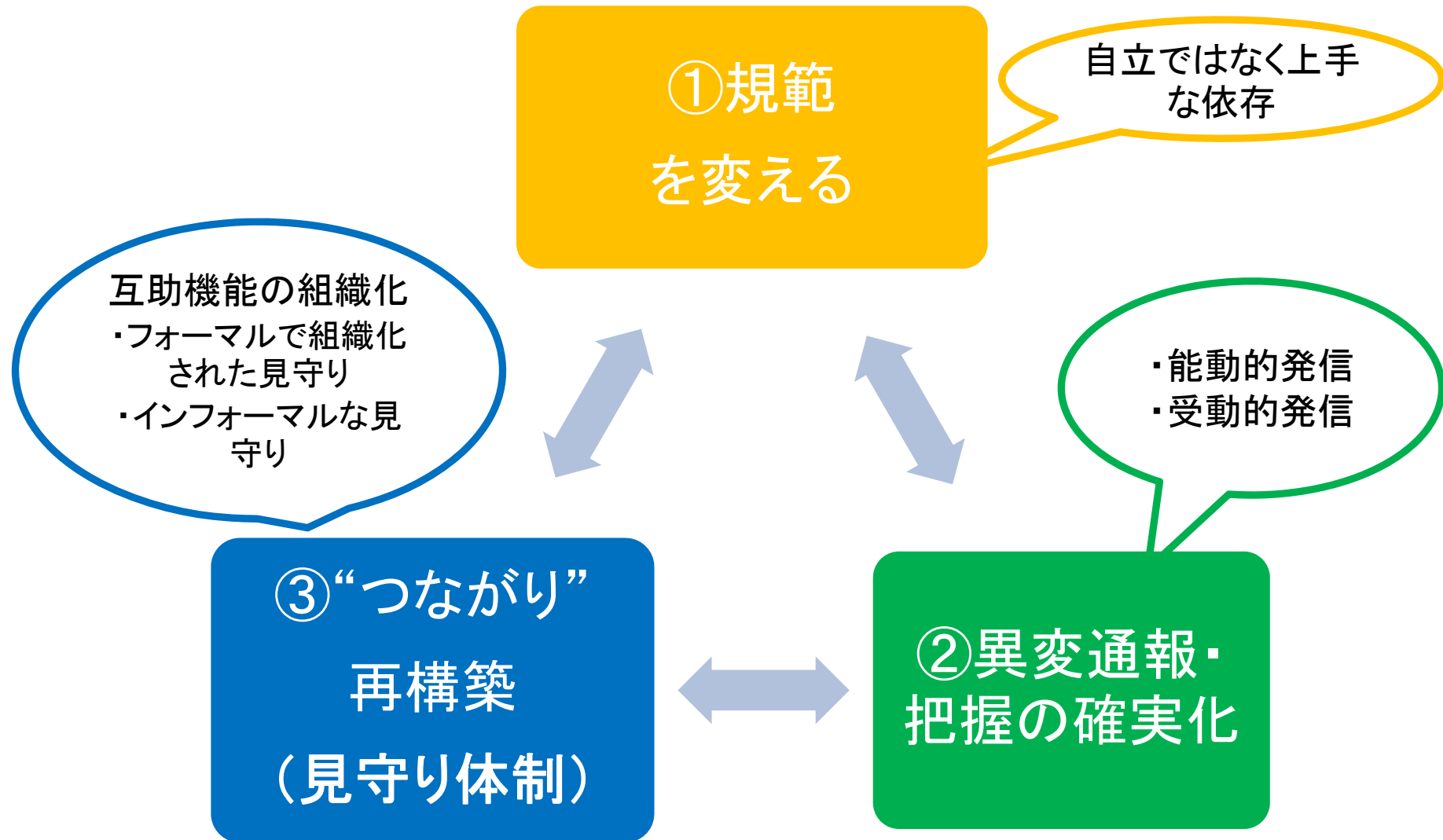
孤立をめぐる問題の構造と解決方法

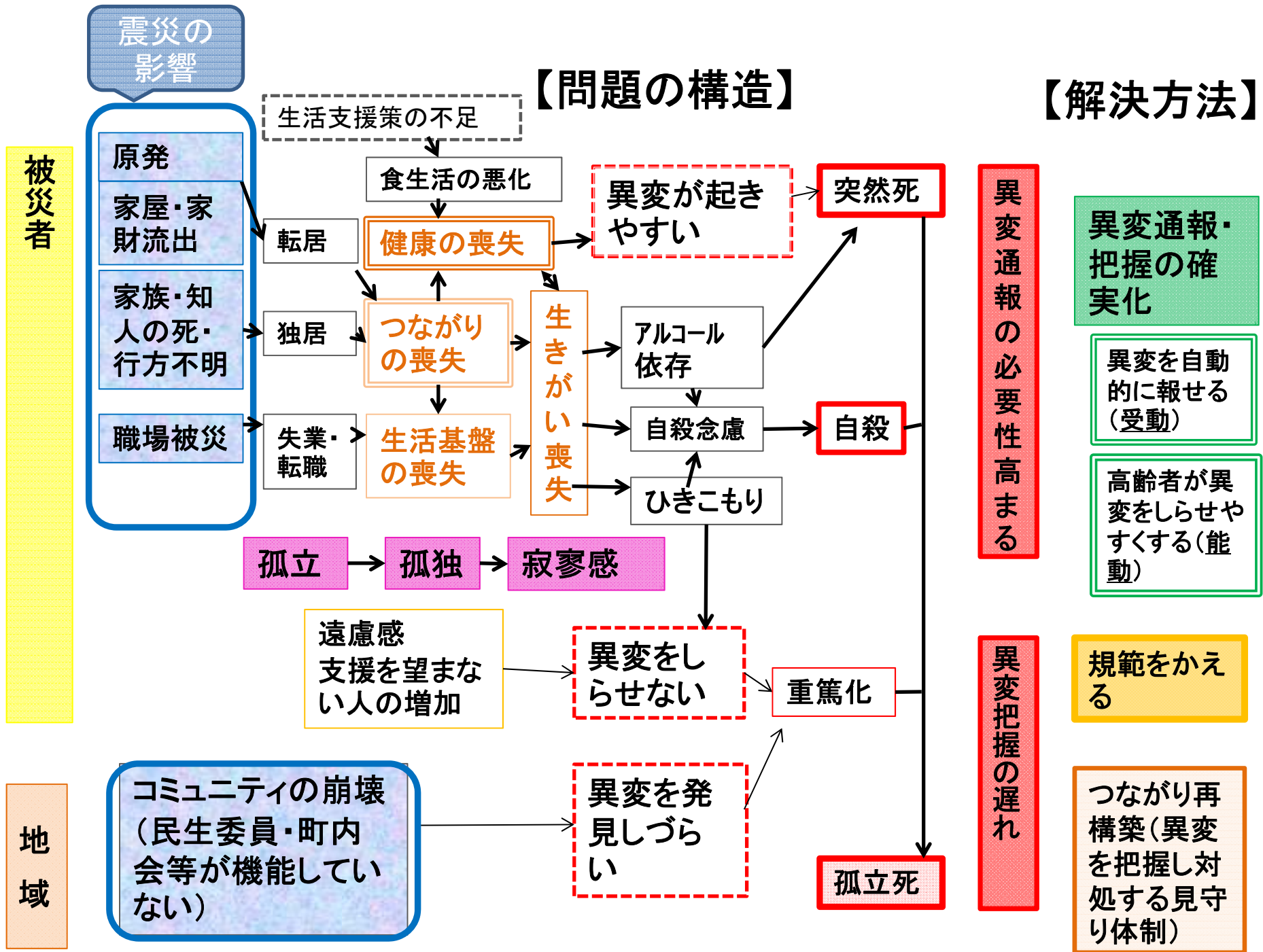
【問題の構造】

【解決方法】



孤立死予防(異変把握)取り組み

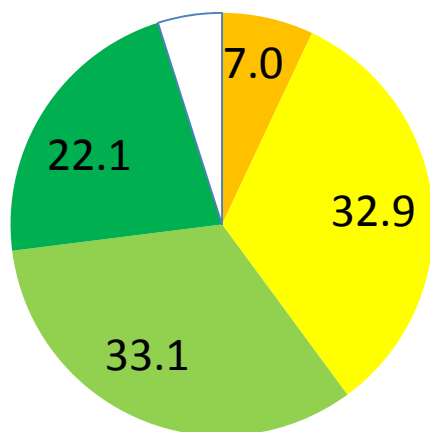




【緊急通報システムの課題】

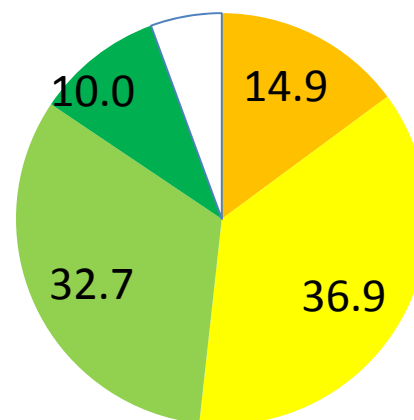


“お守り”？！



■ 非常に感じる
 ■ どちらかといえば感じる
 ■ あまり感じない
 ■ まったく感じない
 □ 無回答

図1. 緊急ボタンを押すことへの遠慮感



■ 非常に感じる
 ■ どちらかといえば感じる
 ■ あまり感じない
 ■ まったく感じない
 □ 無回答

図2. 「いざという時に緊急通報システムを押せないのではないか」という不安感

出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

注) 北東北3県の見守られている高齢者1,500人対象の調査結果 n=700:緊急通報システム利用者

【「見守り」の課題】

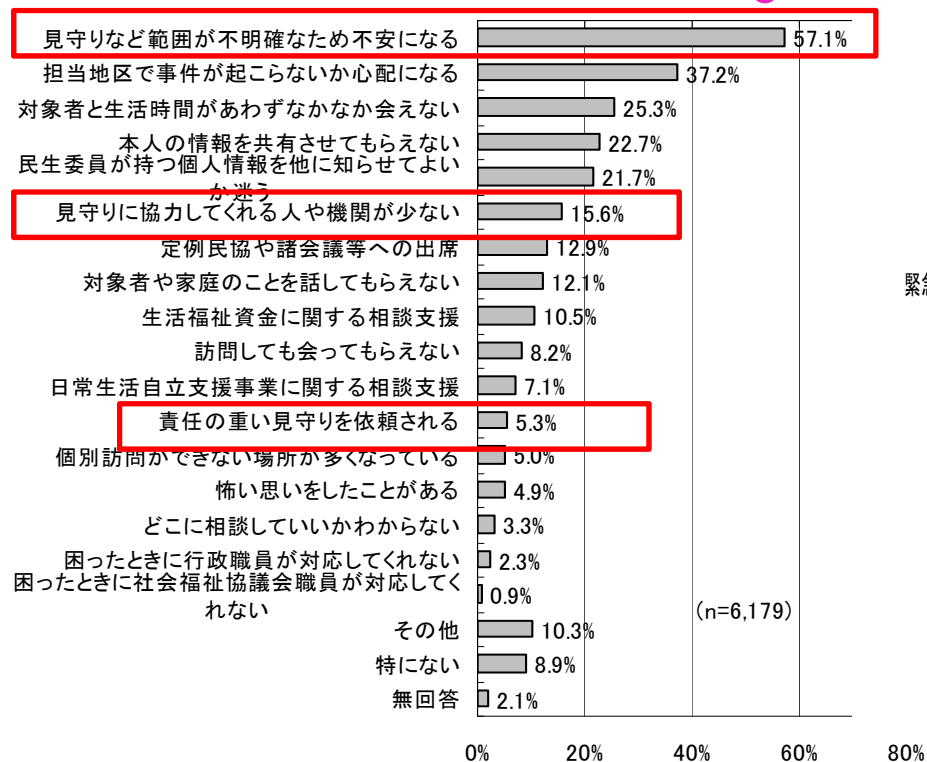


図3. 民生委員活動のなかで大変なこと

出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

注) 北東北3県の民生委員悉皆調査結果 n=6,179

“見張り”？！

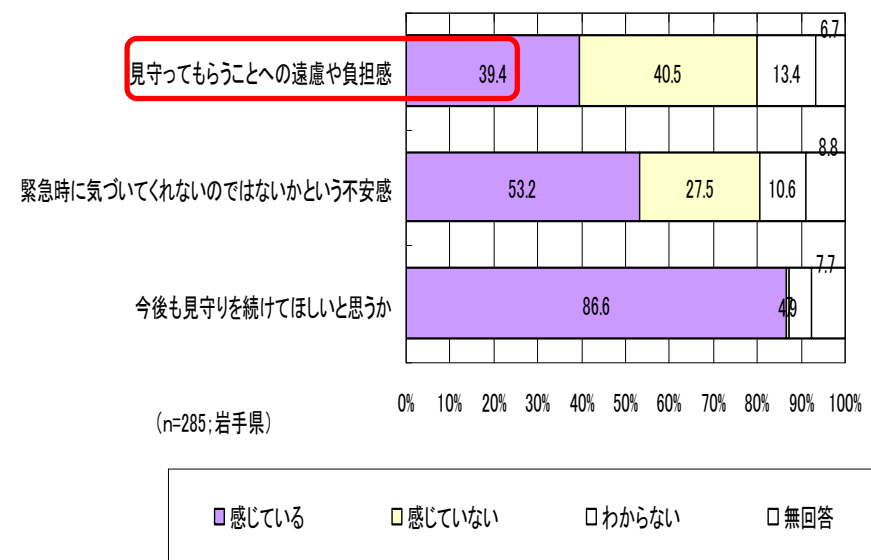


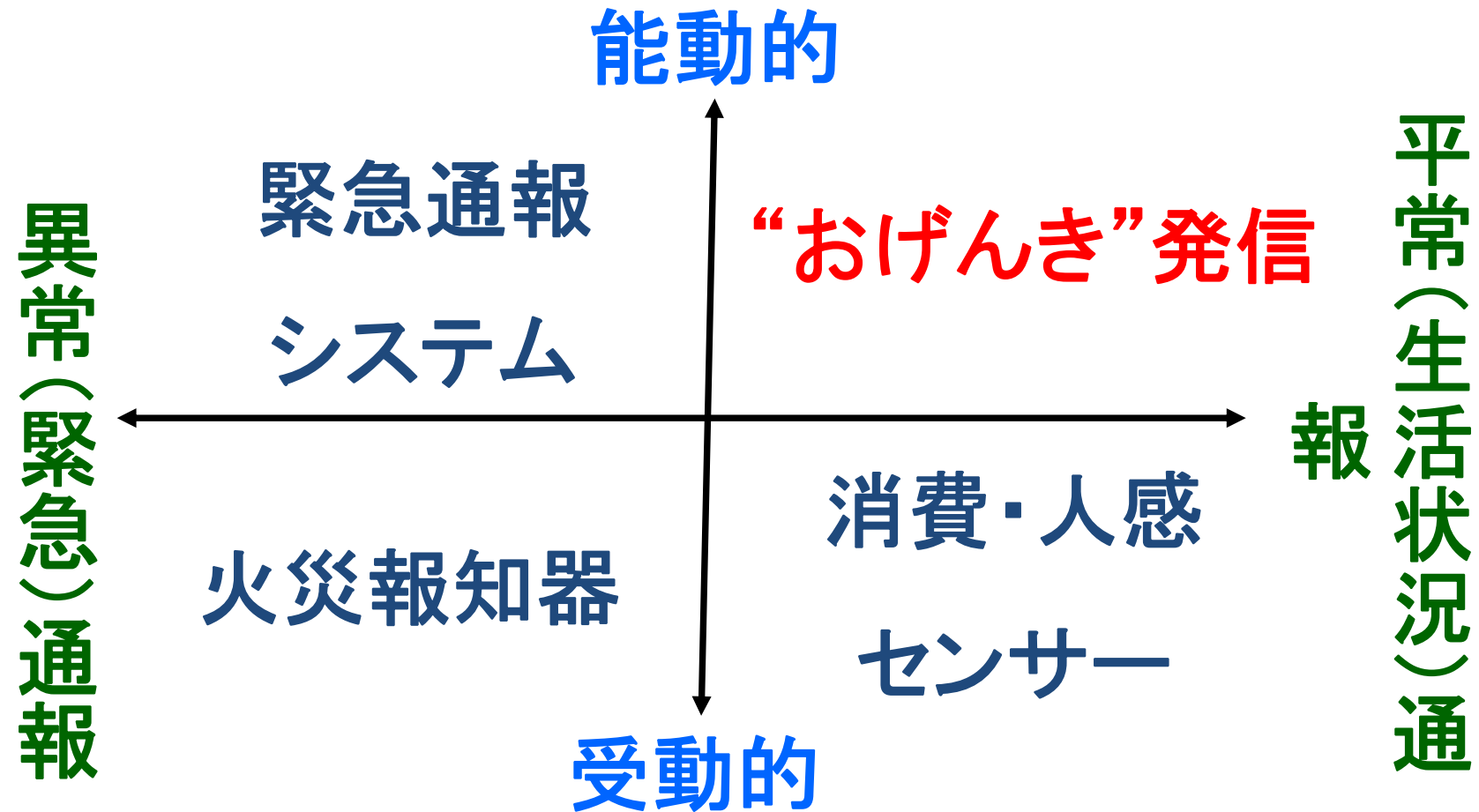
図4. 見守られる側の見守りに関する意識

出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月

注) 岩手県における見守られている高齢者の調査結果

2.「おげんき発信」及び「生活支援型 コミュニティづくり」取り組み

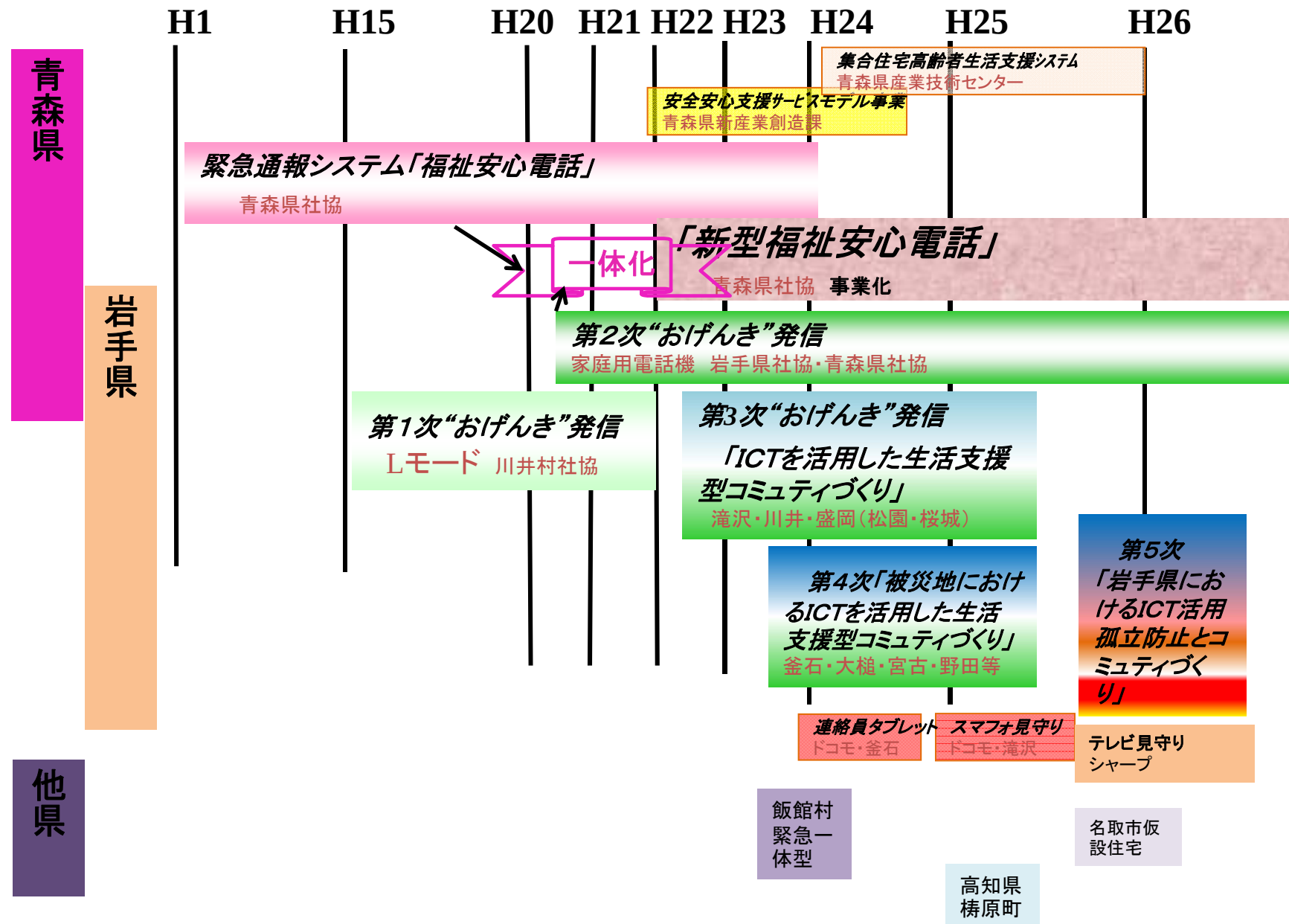
情報通信を活用した異変把握



「おげんき発信」

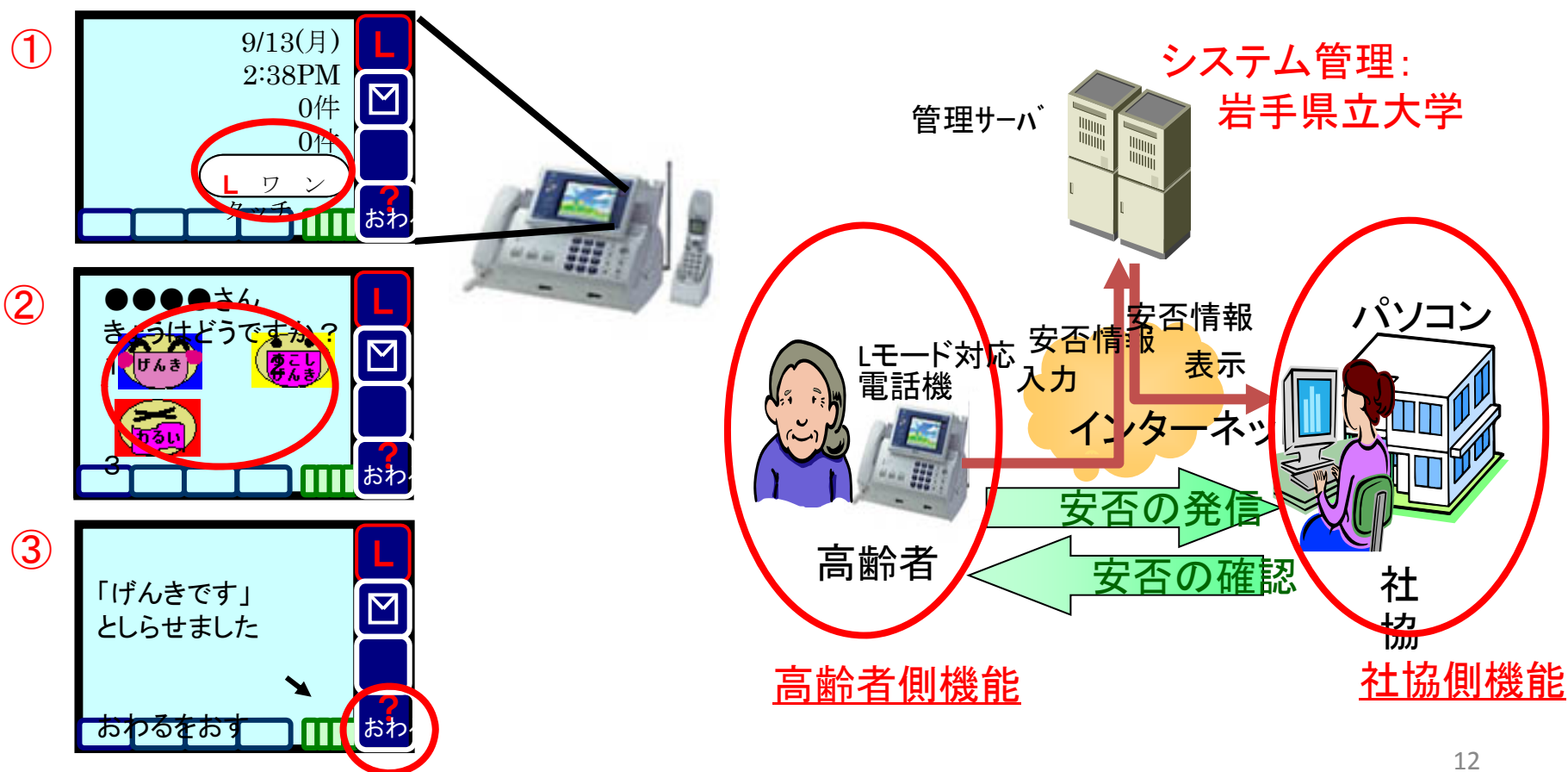
- 高齢者や独居高年（**おげんきさん**）が、能動的に、「今日もげんき！」と発信する仕組み
 - ⇒ 見守られる負担感・遠慮感を払拭
 - ⇒ 自己効用感を高める
- 発信がない場合に、みまもりセンターから電話をかけて安否を確認する。電話にでない場合は、民生委員や近隣の方など（**みまもりさん**）が訪問し確認する。
 - ⇒ 民生児童委員の負担軽減
近隣のネットワーク形成
- これにより、突然死が起きることはあっても、死後数日遺体が放置されるという孤立死は防ぐことができる
- 1日10円の電話代のみ。特別な端末やシステム構築が不要

「おげんき発信」取り組み動向

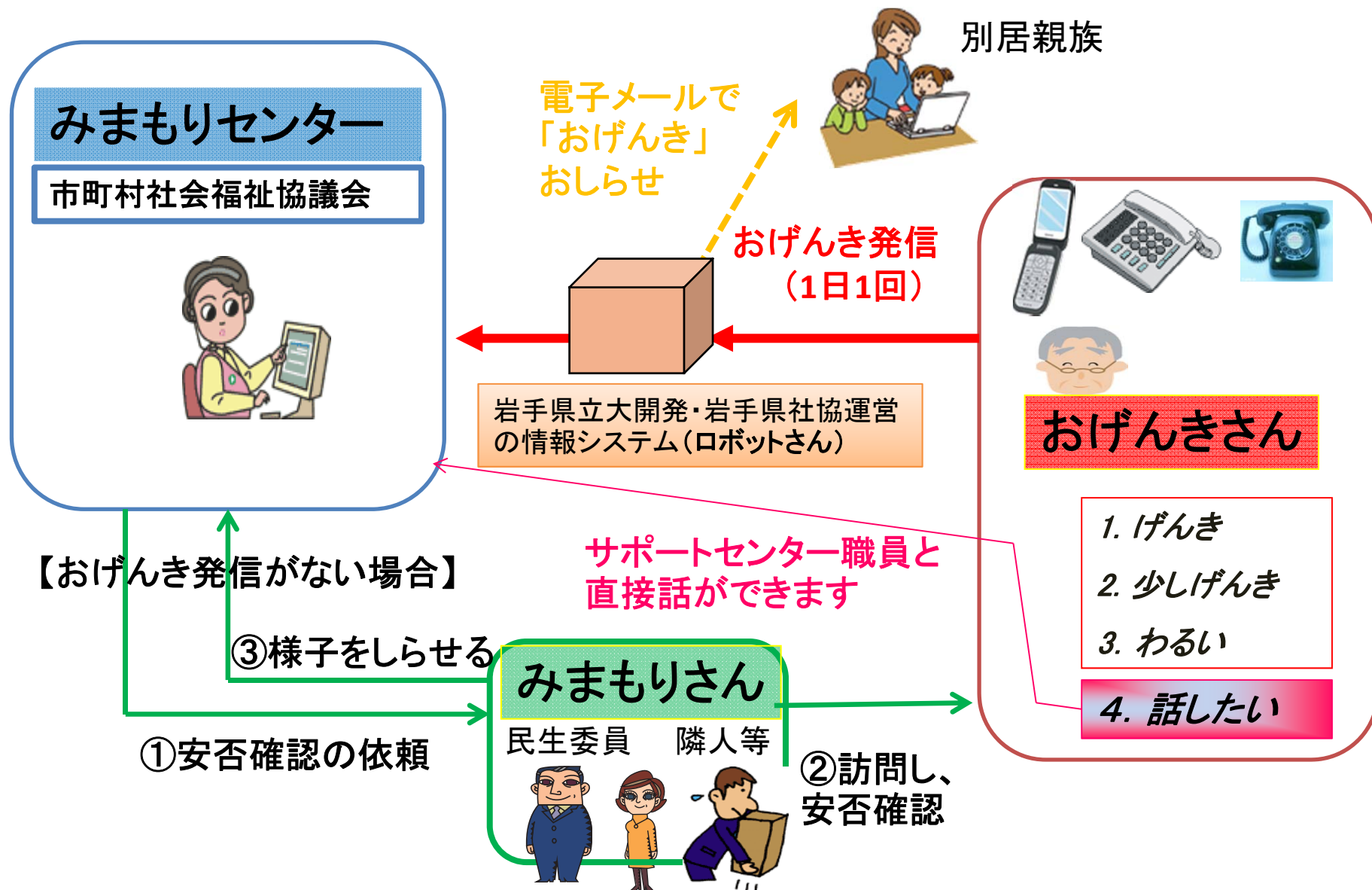


第1次「おげんき発信」

- H15.12～H21.03 岩手県川井村 独居高齢者170名のうち40名使用
- 「**見張り(監視)**」にならないように→高齢者が“おげんき”発信することで、過剰なみまもりを不要とし、高齢者自身の遠慮感を払拭する

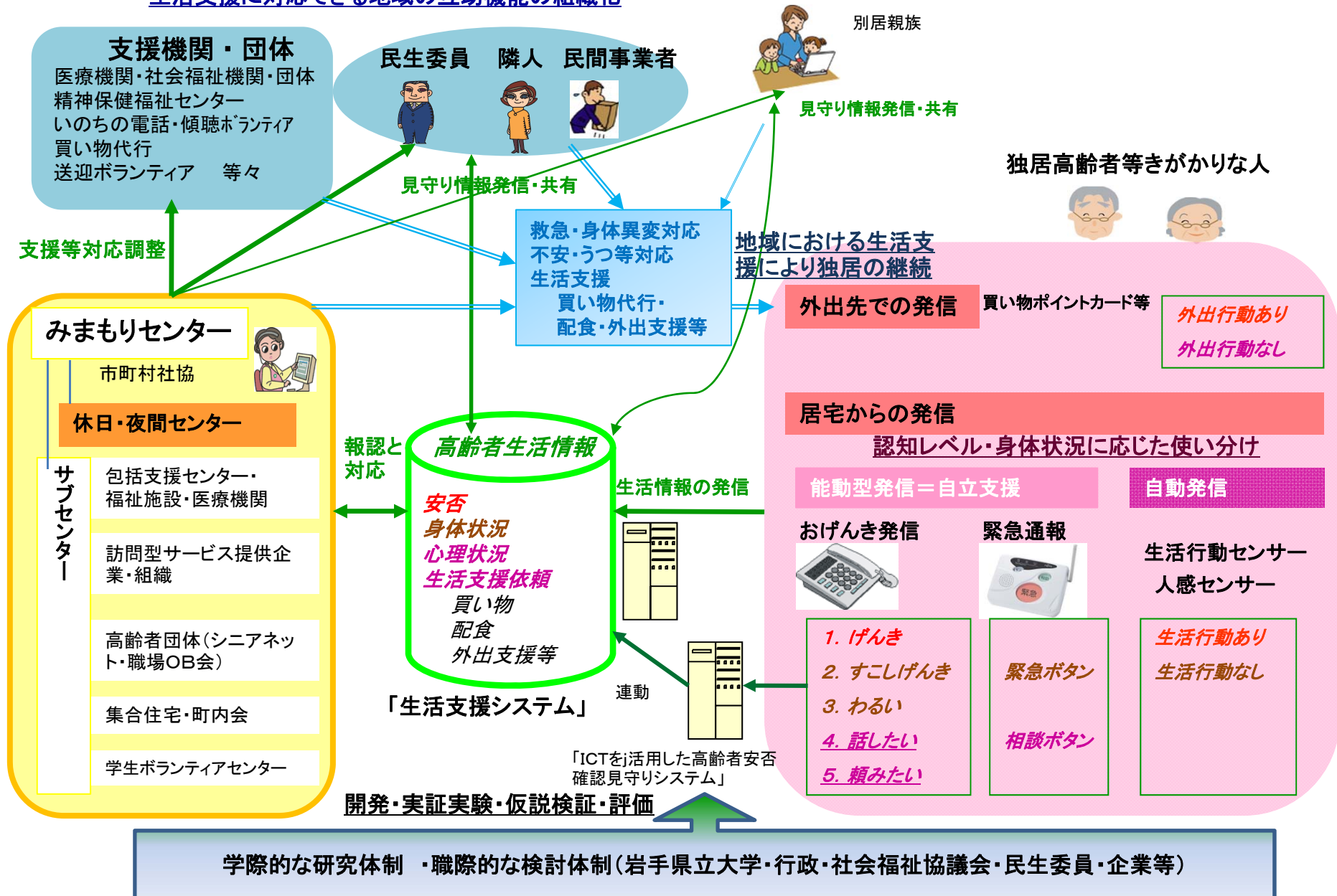


第2次「おげんき発信」 いわて“おげんき”みまもりシステム



第3次「おげんき発信」:「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」実証実験の概要

生活支援に対応できる地域の互助機能の組織化



フィールド

滝沢村

郊外スプ
ロール型

盛岡市・
松園地区

ニュータウン型

盛岡市・
桜城地区

都心型



赤線内面積 1,631.86km²
(比較:香川県 1,876.47km²)

IWATE

面積:
15,278.86km²



宮古市・川井地区
(旧川井村)

過疎・高齢化進展型

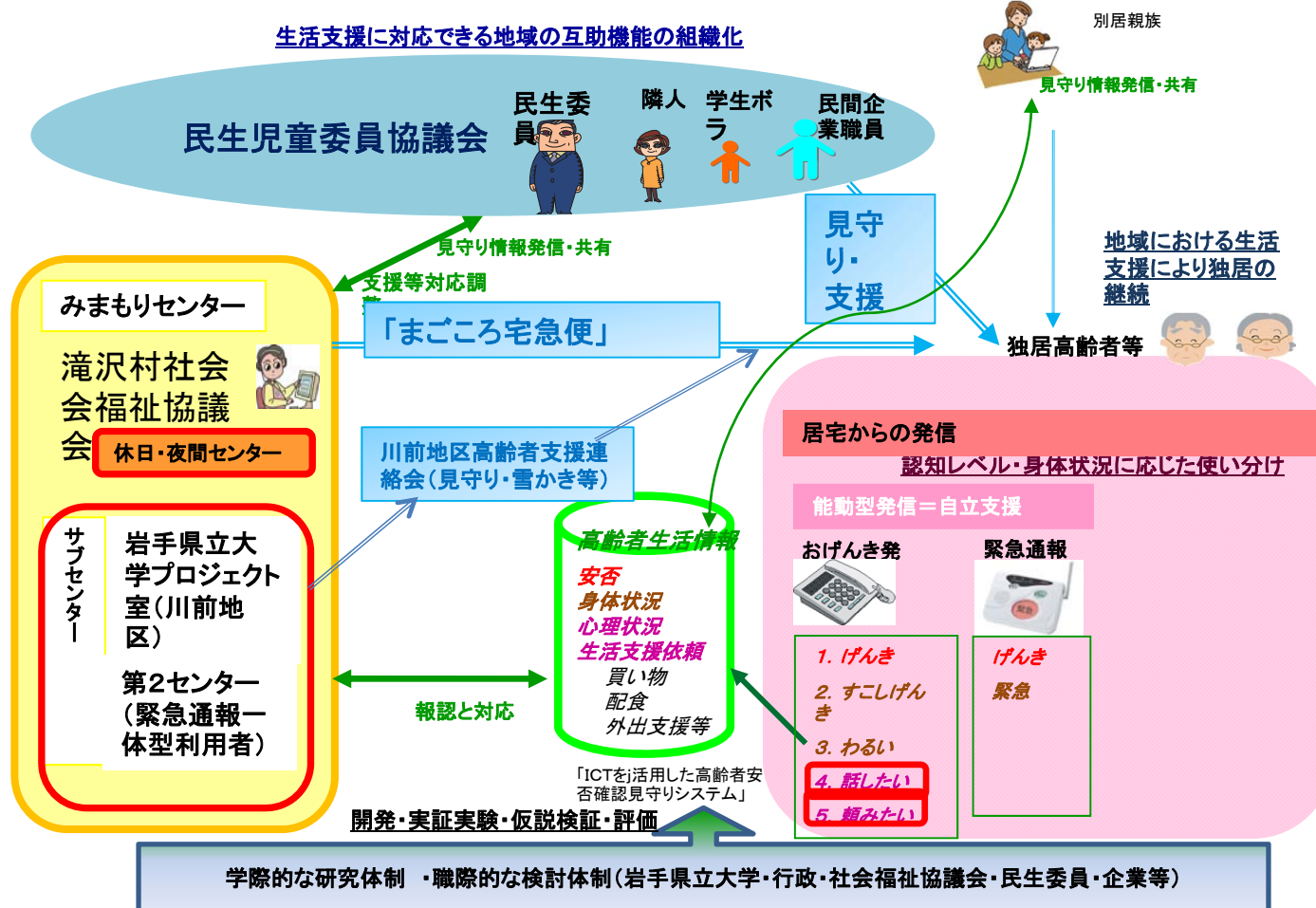
出典) 岩手県庁HP
をもとに作成。

注) 平成18年1月10日
現在の市町村状況

フィールドにおける進捗状況

地域	地域性	みまもりセンター (現在のモニター 数)	生活支援の方策
滝沢	郊外スプロール型 人口5万人の村。岩手県立大が 立地し、行政の協力度が高い	社会福祉協議会 (50)※	民生委員との連携、有償・無償のサー ビス連携
		滝沢第2みまもりセン ター【緊急通報一体 型】(20)※	緊急通報との一体化を図り、㈱アイ ネット、地域包括支援センター、民生 委員による支援と連携
		川前みまもりセンター (21)※	川前地区高齢者支援連絡会により、店 舗や介護事業者、学生ボランティアセ ンター、民生委員と連携し、買い物・ 送迎・雪かき等のニーズをマッチング
		計(91)	
松園	ニュータウン型 昭和40年代から開発された人口 約2万人の盛岡市郊外の団地	社会福祉法人育心会 H25.03.31からPJ室 (16)	民生委員との連携。社会福祉法人が受 託している配食・ホームヘルパーによ る生活支援と連携。
桜城	都心型 盛岡駅前で集合住宅を中心に孤 立死対策に取り組んでいる地域	盛岡駅西口地域包括 支援センター (17)※①	民生委員との連携。 盛岡市と市営住宅でのセンサー実験開 始。
宮古市 川井	過疎・高齢化進展型 旧川井村。東京23区の面積に約 3千人居住。高齢化率40%超。	社会福祉協議会支所 (38) ②	民生委員によるサブセンターができ、 家業（米屋）による買い物代行支援。 入浴施設送迎との連携で買い物支援策 を検討中。
合計		(おげんき発信162) ※夜間・休日の青森 への転送108 センサー③	

滝沢(郊外スプロール型)における社会実験デザイン(最終段階)



滝沢村での集中的取り組み 緊急通報との一体化



(効果)
異変把握の
確実性
信頼性
効率性向上

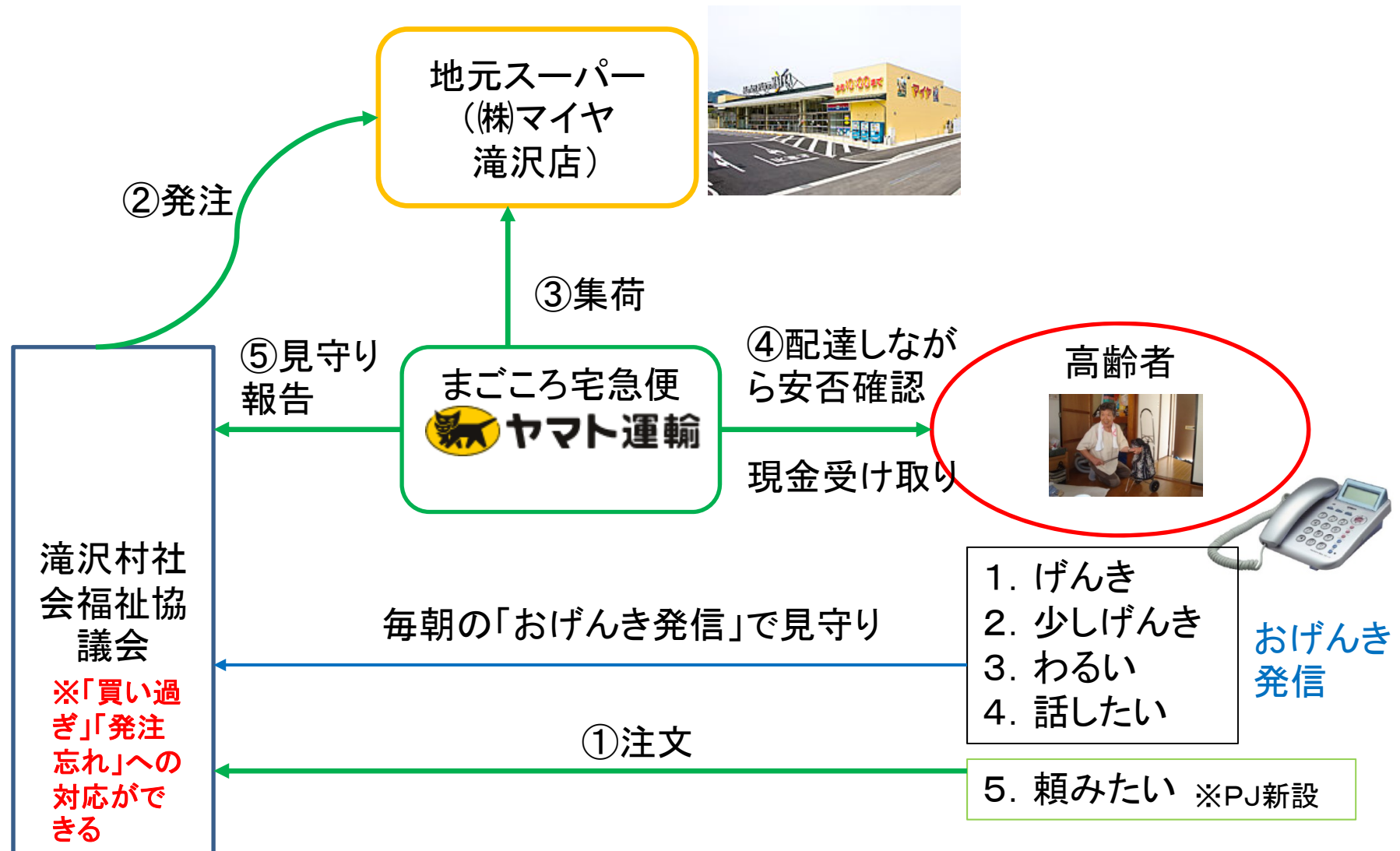
「おげんき発信」
滝沢村社会福祉
協議会

情報共有
連 携

「緊急通報システム」
滝沢村
受託: アイネット(株)

滝沢村での取り組み例

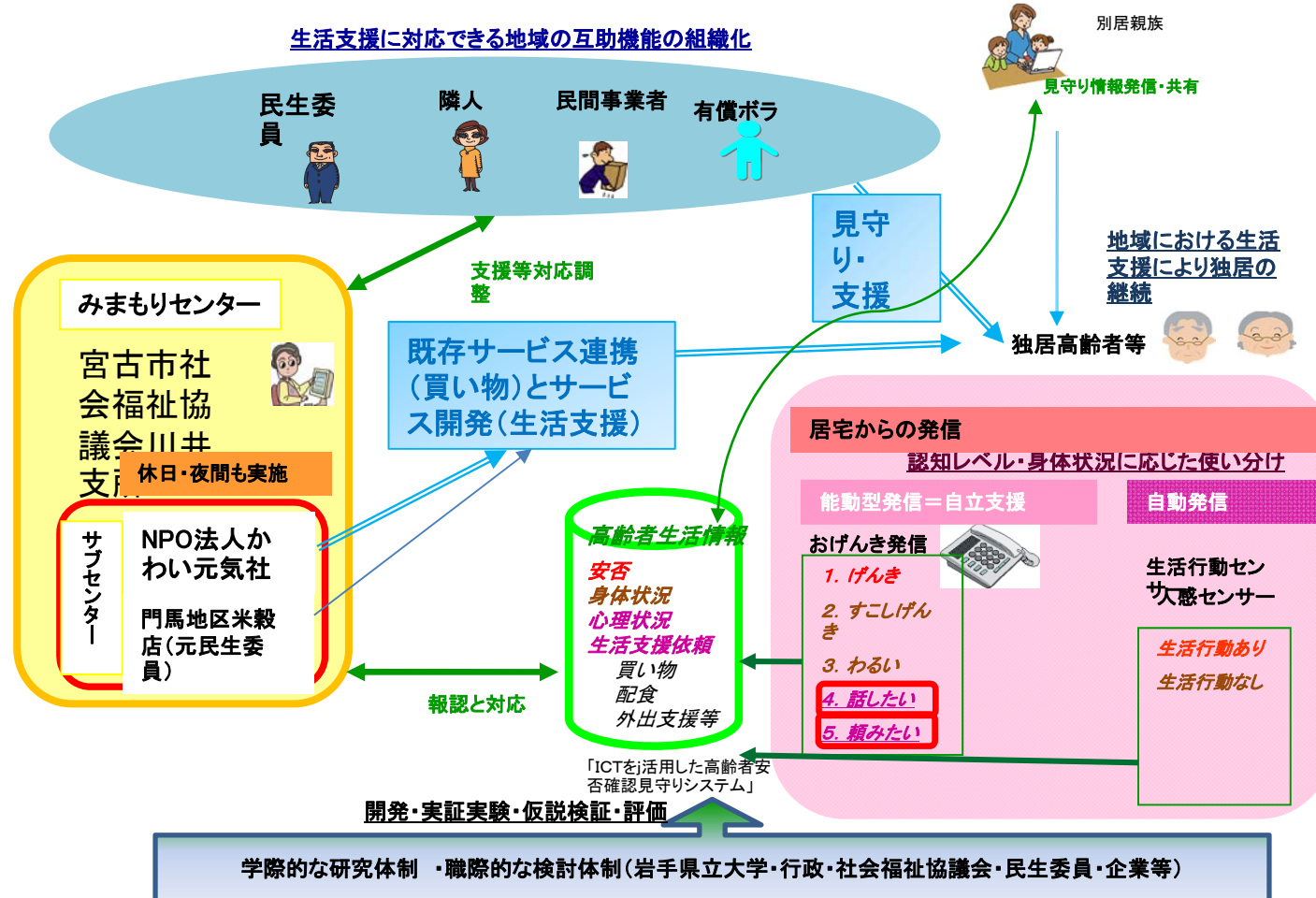
買い物支援策(まごころ宅急便)



滝沢村での取り組み例 川前地区高齢者支援連絡会

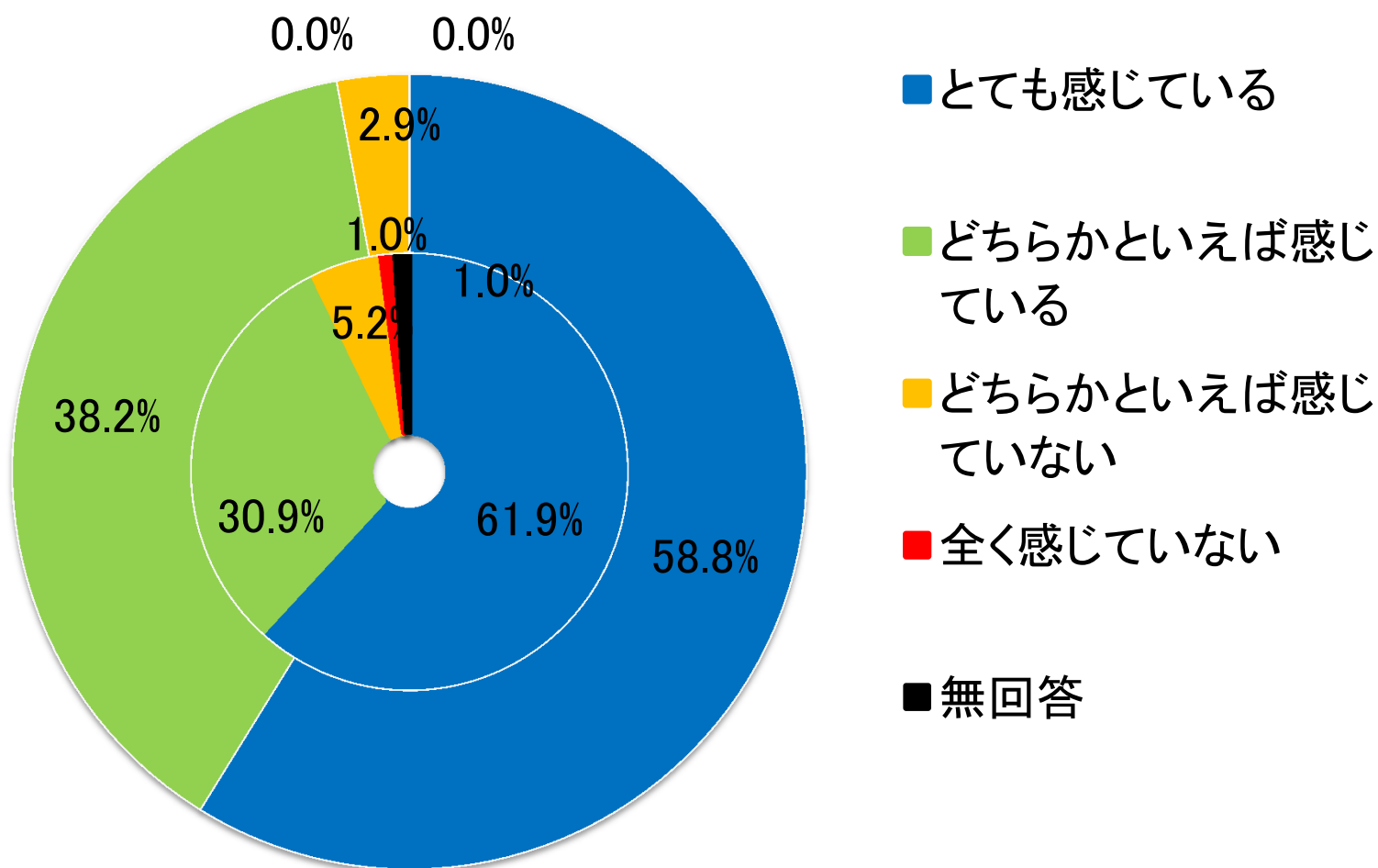


川井(過疎・高齢化進展型)における社会実験デザイン(最終段階)



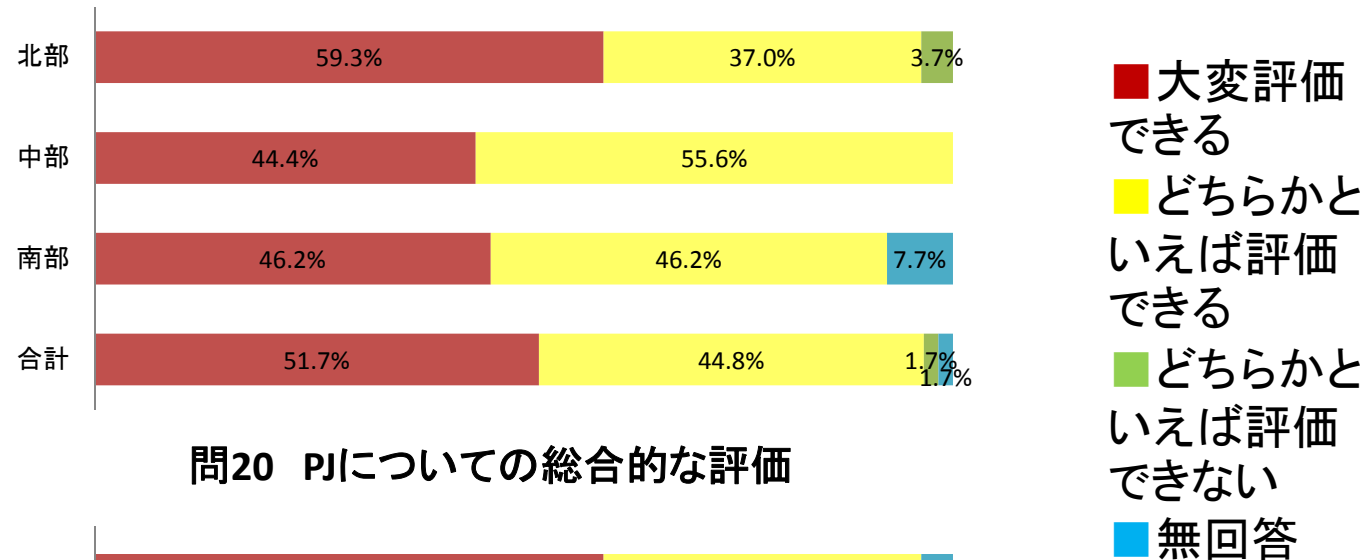
モニター調査結果：おげんき発信によって見守られる安心を感じるか

2期

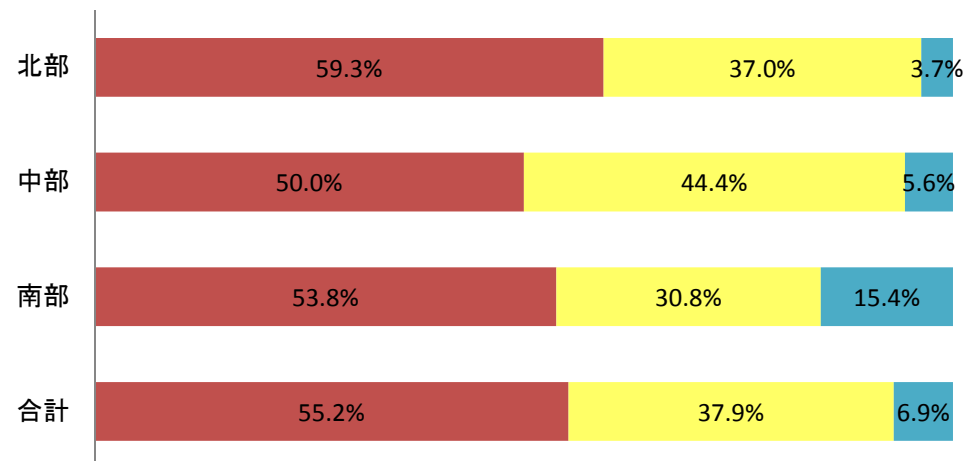


滝沢村民生児童委員のPJ評価

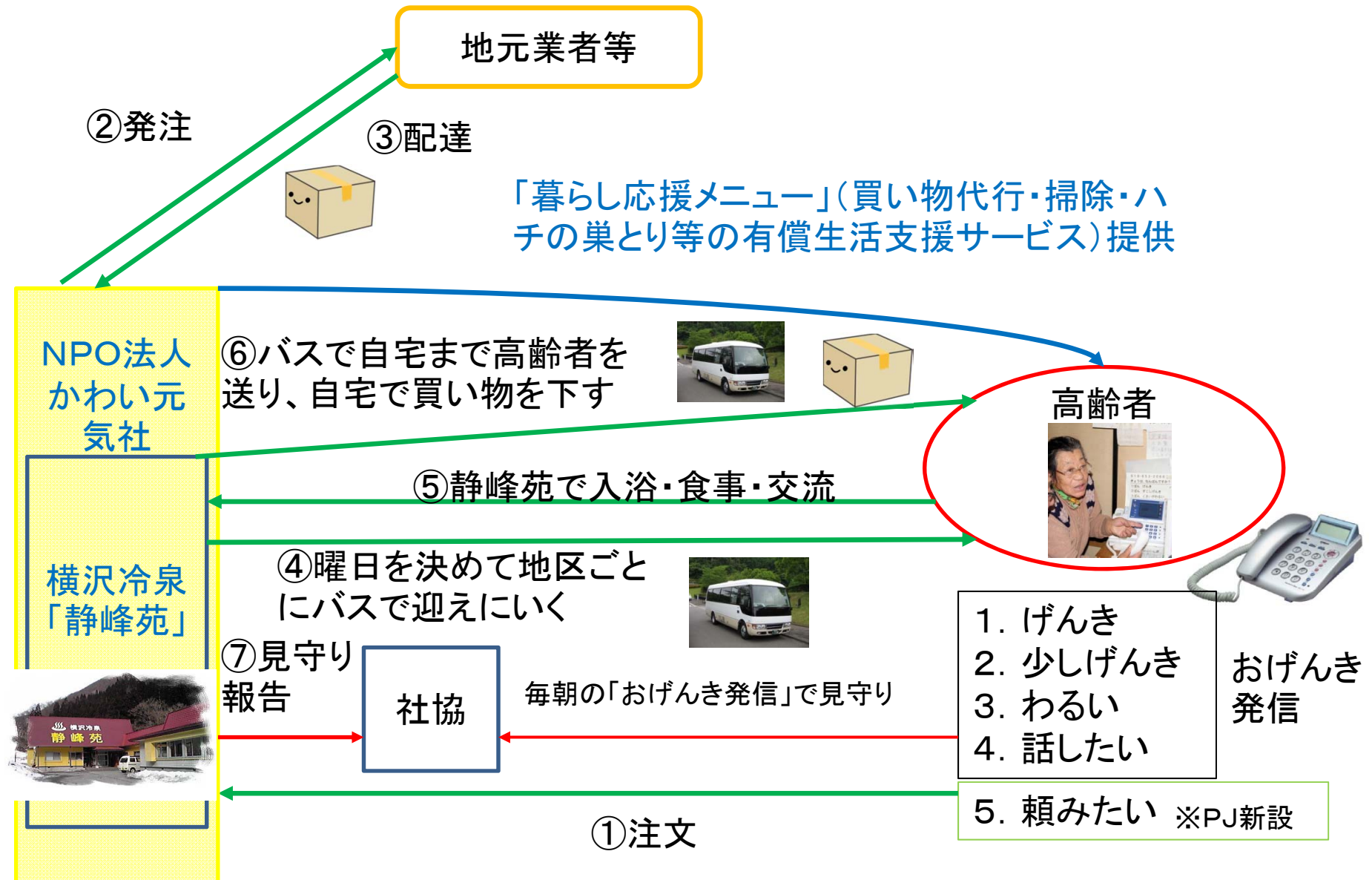
問18 「お元気発信」生活支援サービス への評価



問20 PJについての総合的な評価



宮古市川井地区での取り組み例



第4次「被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」

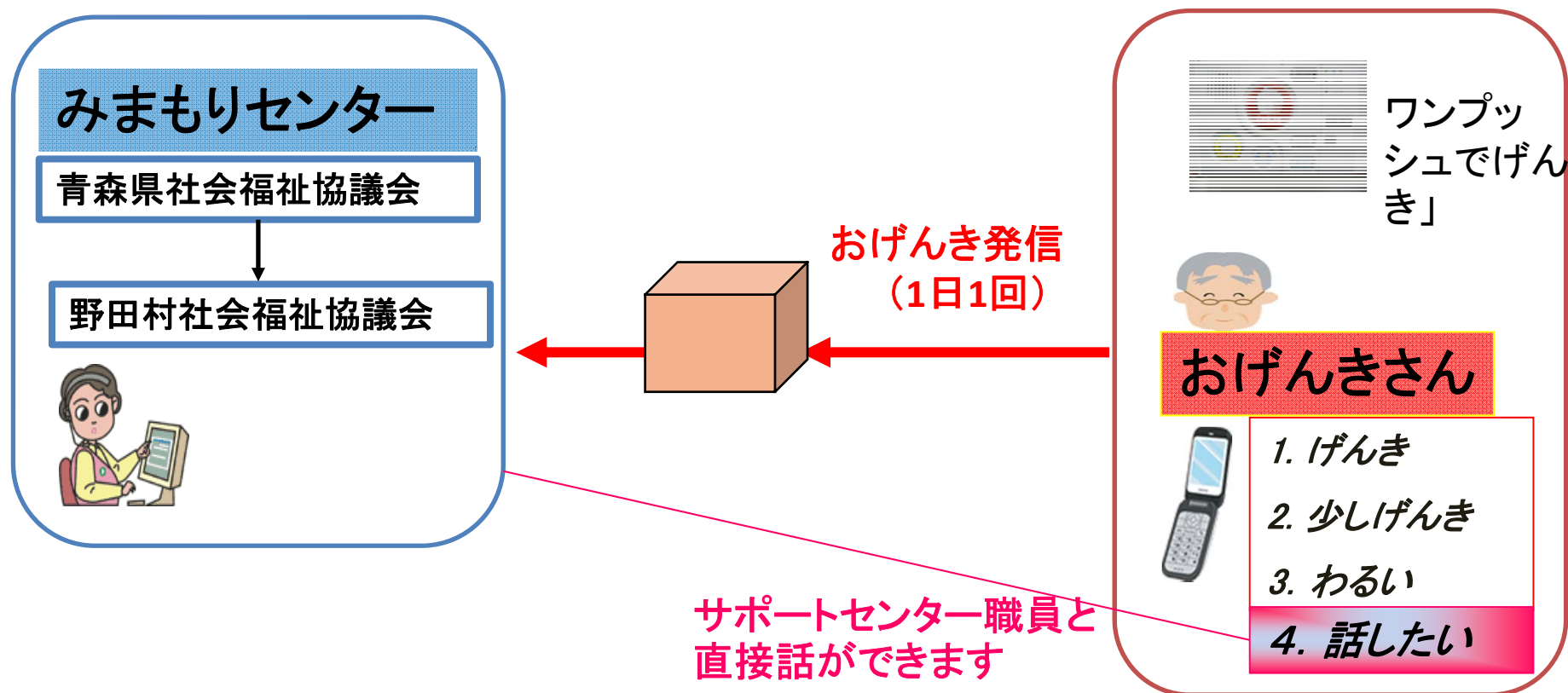
- 津波による壊滅的な被害を受けた地域は、その性格上、外部支援に対するニーズの表明が難しい。復旧段階においては外部支援者がもつ資源を最大限に活用するしかないが、復興段階の支援においてはできる限り被災地のニーズを把握し、被災地に残されている資源を活かすことで、被災地や被災者が自らの生活の調整と改善を図る力をつけられるようにエンパワメントする視点が重要である。
- 本研究においては、そのような観点から、これまでの関わりがある地域の中からプロジェクトの受け入れニーズがあるフィールドを探し、フィールドとの信頼関係を構築しつつ、そのフィールドのもつ資源を活用したみまもり体制の構築を行ってきた。

フィールド概要

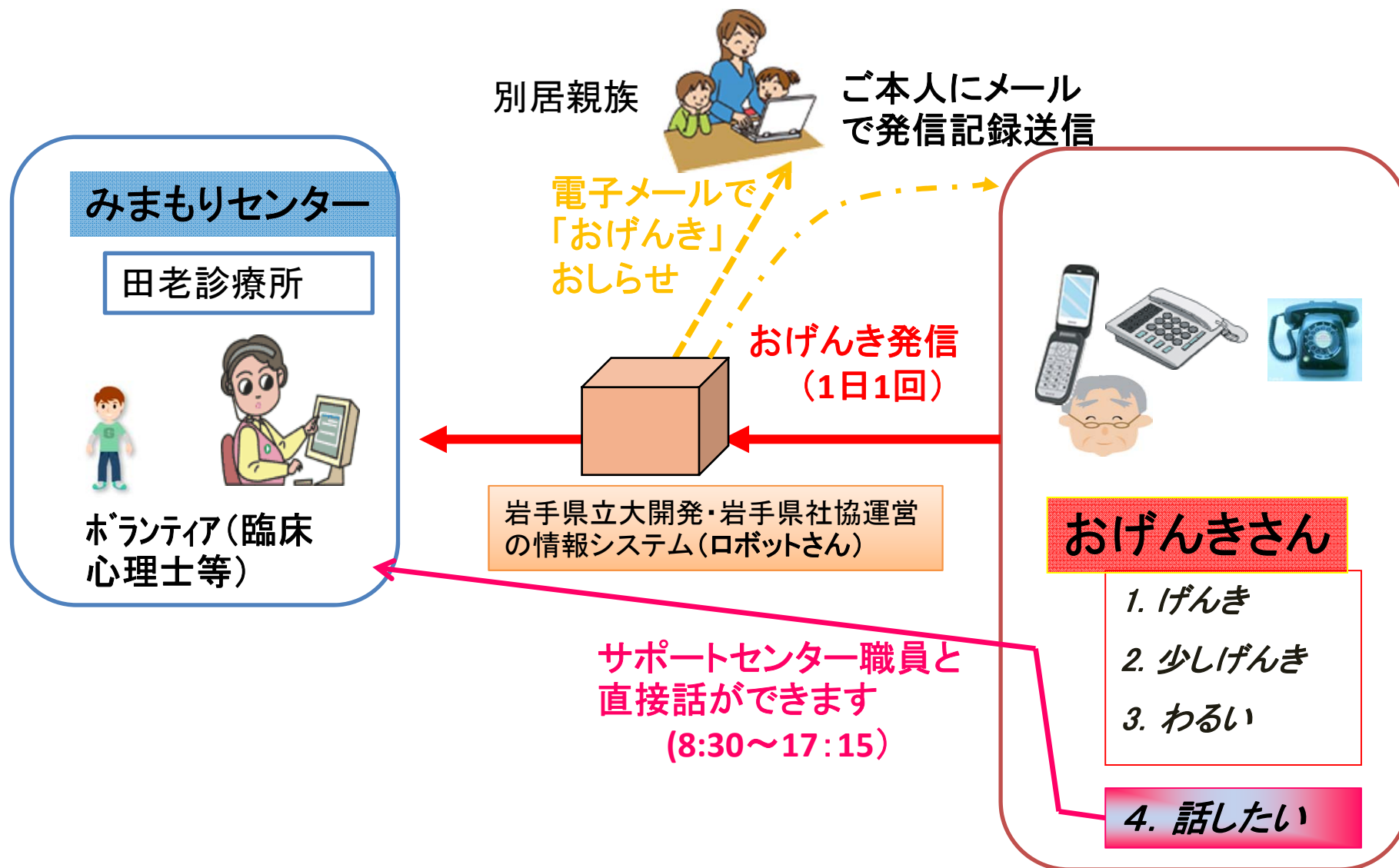
フィールド	みまもりセンター	利用者数	導入時期
野田村	野田村社会福祉協議会 青森県社会福祉協議会	15 (15)	23年7月
宮古市田老	宮古市国民健康保険診療所田老診療所 (平成24年2月まで) 岩手県立大学プロジェクト室(平成24年3 月以降)	6 (6)	23年9月
大槌町和野	サポートセンター和野っこハウス(社会福 祉法人大槌町社会福祉協議会受託)	5 (10)	24年1月
釜石市鵜住居	鵜住居地区サポートセンター(社会福祉 法人愛恵会受託)	11 (25)	23年9月
盛岡市	(検討中)	0	検討中

注)おげんき発信利用者数。上段は取り組み開始段階の利用者数、下段は平成24年度末までの最大利用者数

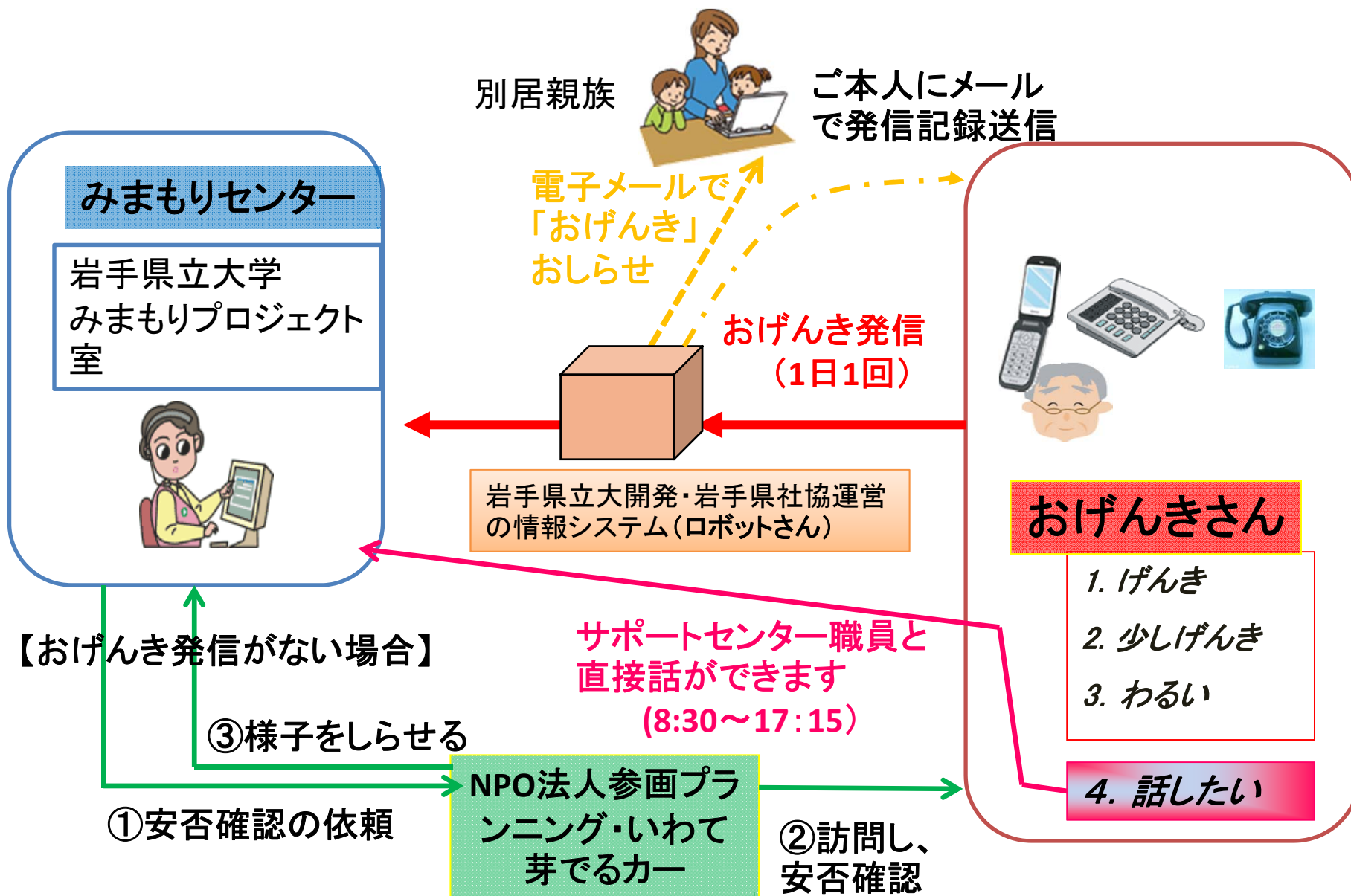
野田村における見守り体制



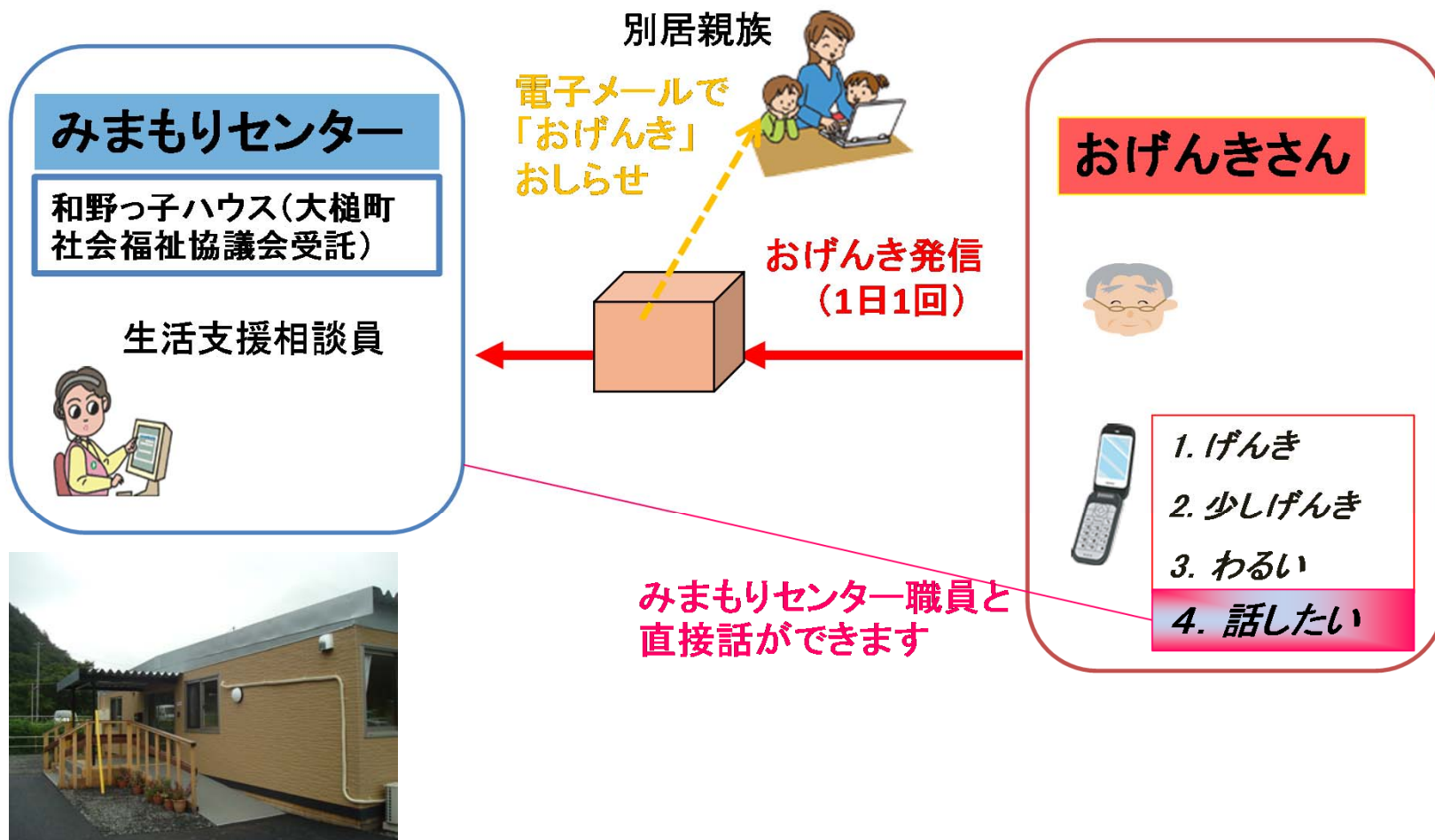
田老地区における見守り体制(～平成24年2月)



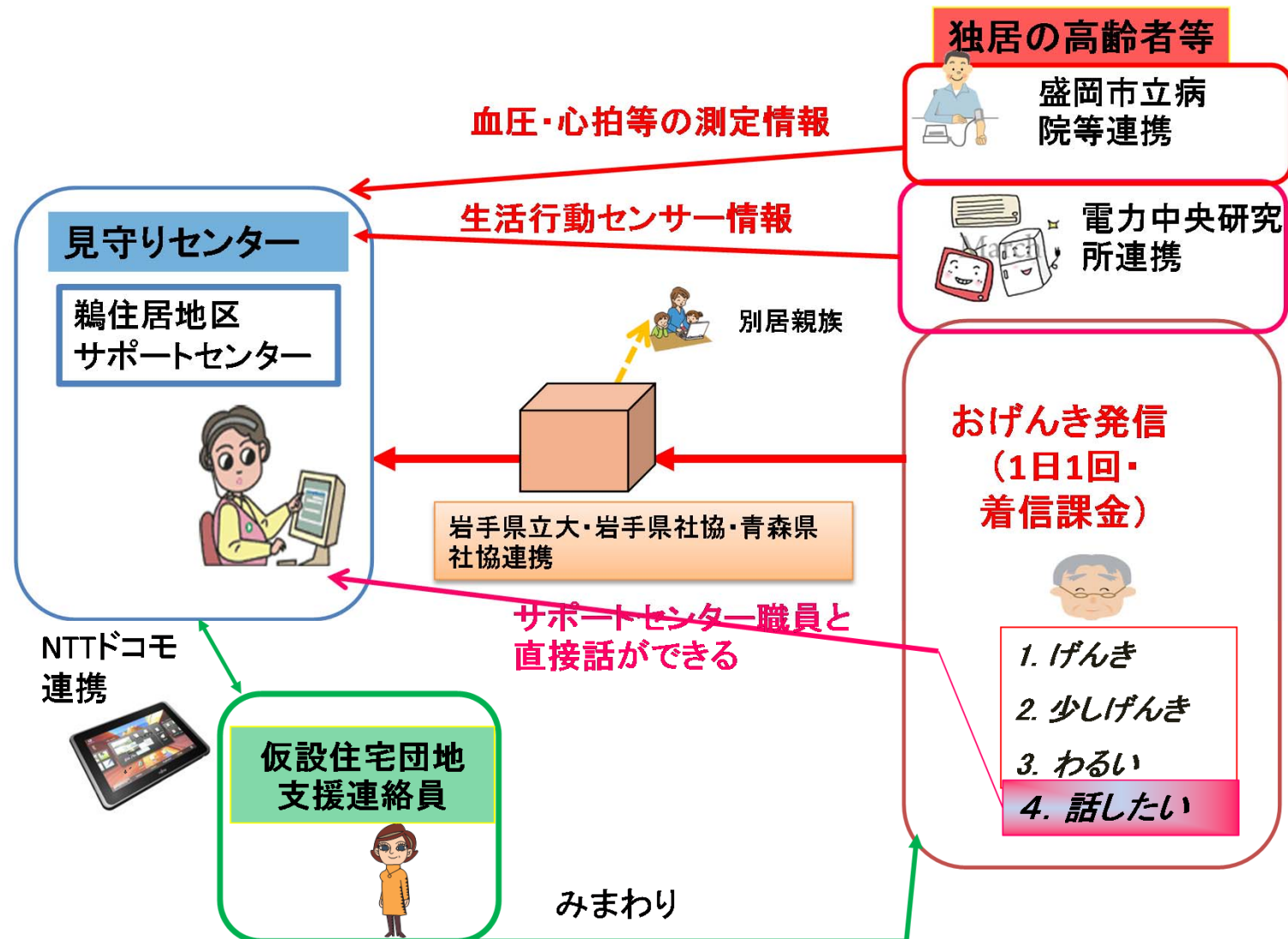
田老地区における見守り体制(平成24年3月～)



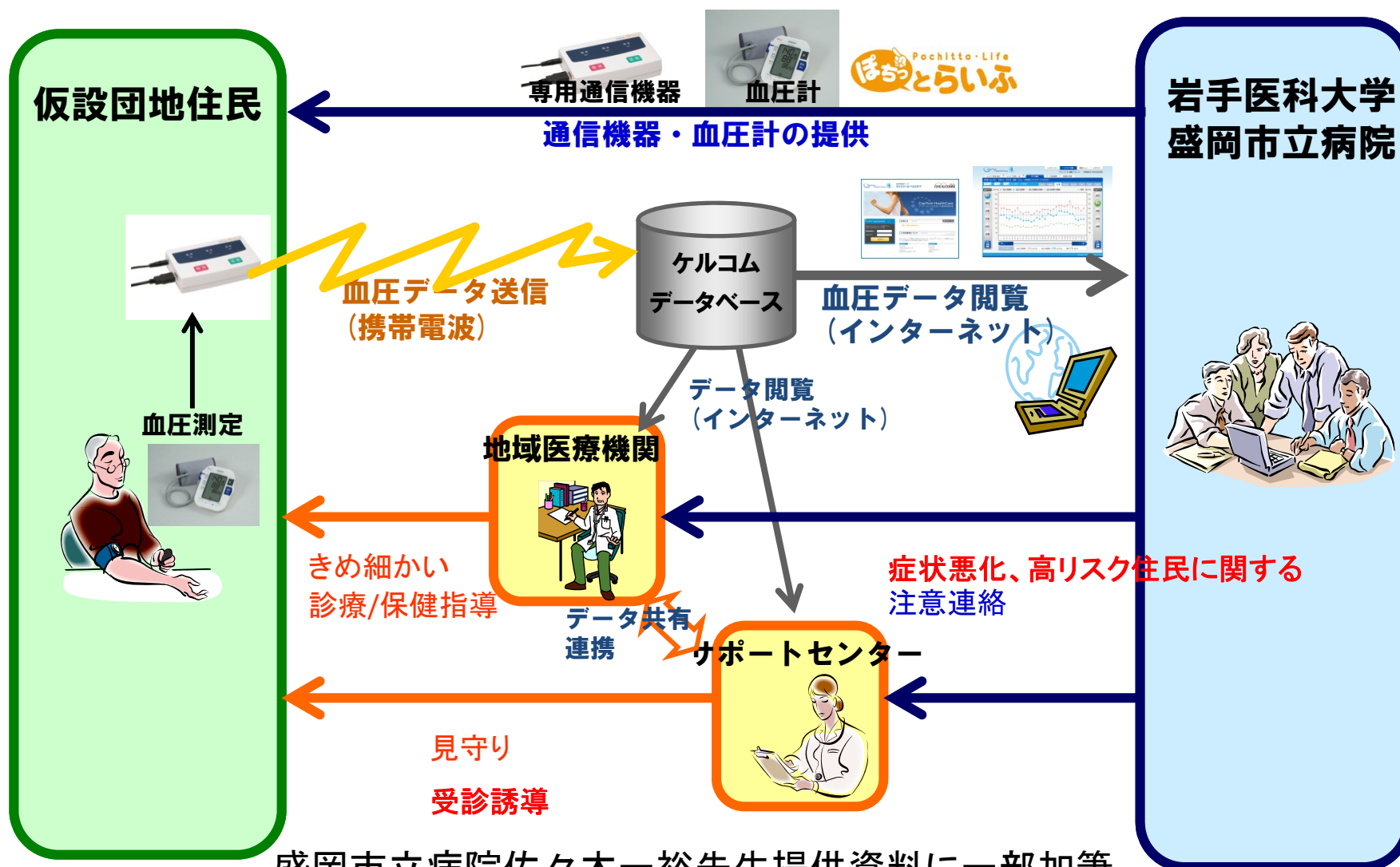
大槌町和野地区における見守り体制



釜石市鵜住居地区における見守り体制



血圧測定：岩手医大・盛岡市立病院等との連携）



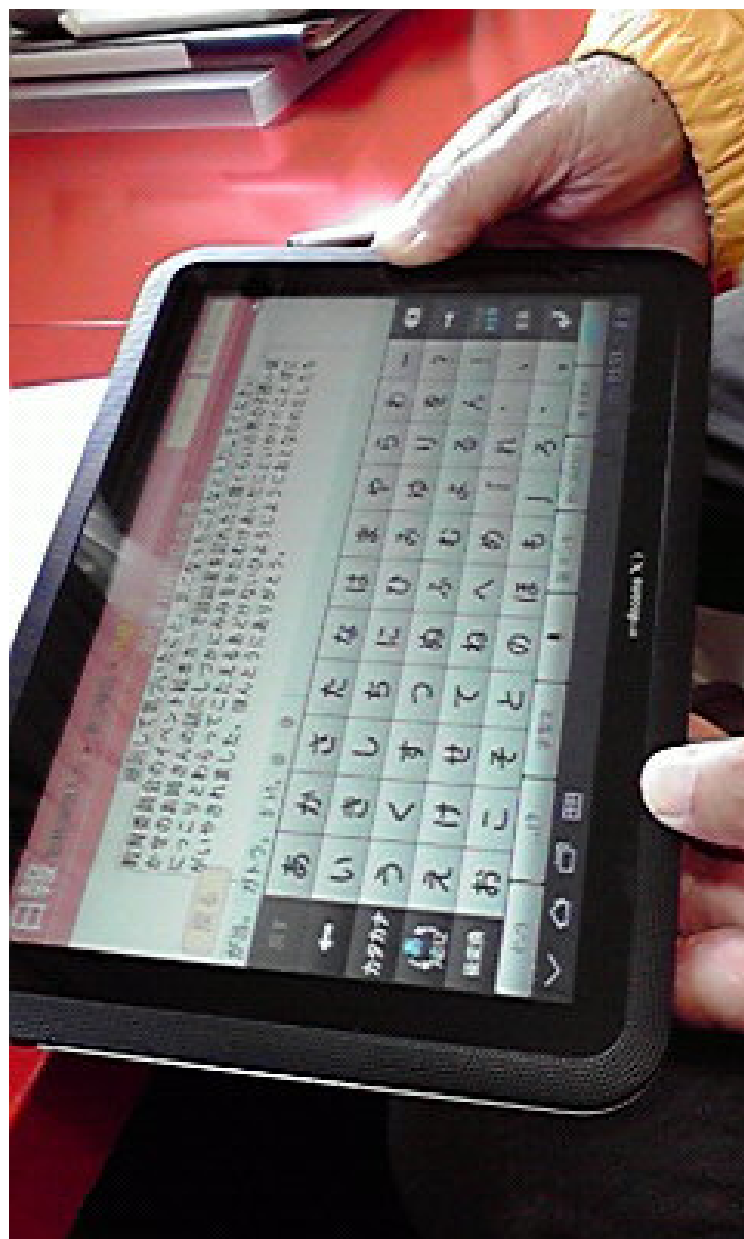
盛岡市立病院佐々木一裕先生提供資料に一部加筆

生活行動センサー 電力使用センサー(電力中央研究所と連携) ＋おげんき発信(緑)



認知症・弱視・難聴
の方の安否確認と
異変把握

仮設住宅団地連絡支援員がタブレットを活用し情報共有
(NTTドコモとの共同研究で開発)



画面イメージ

1. 住宅巡回：仮設住宅ごとに住民の在宅・不在を確認

The screenshots illustrate the workflow of the 'Residential Round' (住宅巡回) application. The first screen shows a map of the 'Kamishima' area with a route. The second screen shows the selection of 'Unit A' (1号棟). The third screen shows the selection of 'Unit A-1' (1-1). The fourth screen displays a detailed log of visits for Unit A-1, including dates, times, and status (seen, heard, or not present).

住宅巡回 選択1 > 選択2 > 選択3 > 在宅確認

ヘルプ 業務選択へ

鵜住居地区

鵜住居町仮設団地A

鵜住居町仮設団地B

住宅巡回 選択1 > 選択2 > 選択3 > 在宅確認

ヘルプ 業務選択へ

鵜住居町仮設団地A

B

1号棟

住宅巡回 選択1 > 選択2 > 選択3 > 在宅確認

ヘルプ 業務選択へ

1号棟

1-1

鵜住居町仮設団地A 1号棟

1-5 1-4 1-3 1-1

住宅巡回 選択1 > 選択2 > 選択3 > 在宅確認

ヘルプ 業務選択へ

鵜住居町仮設団地A 1号棟 1-1

訪問回数	10/17 (水)	10/18 (木)	10/19 (金)	10/20 (土)	10/21 (日)	10/22 (月)
1	9:13	10:23	9:59	10:17		
2		13:23	13:27			
3		15:59				
予定						

在宅(見た)

在宅(聞いた)

不在

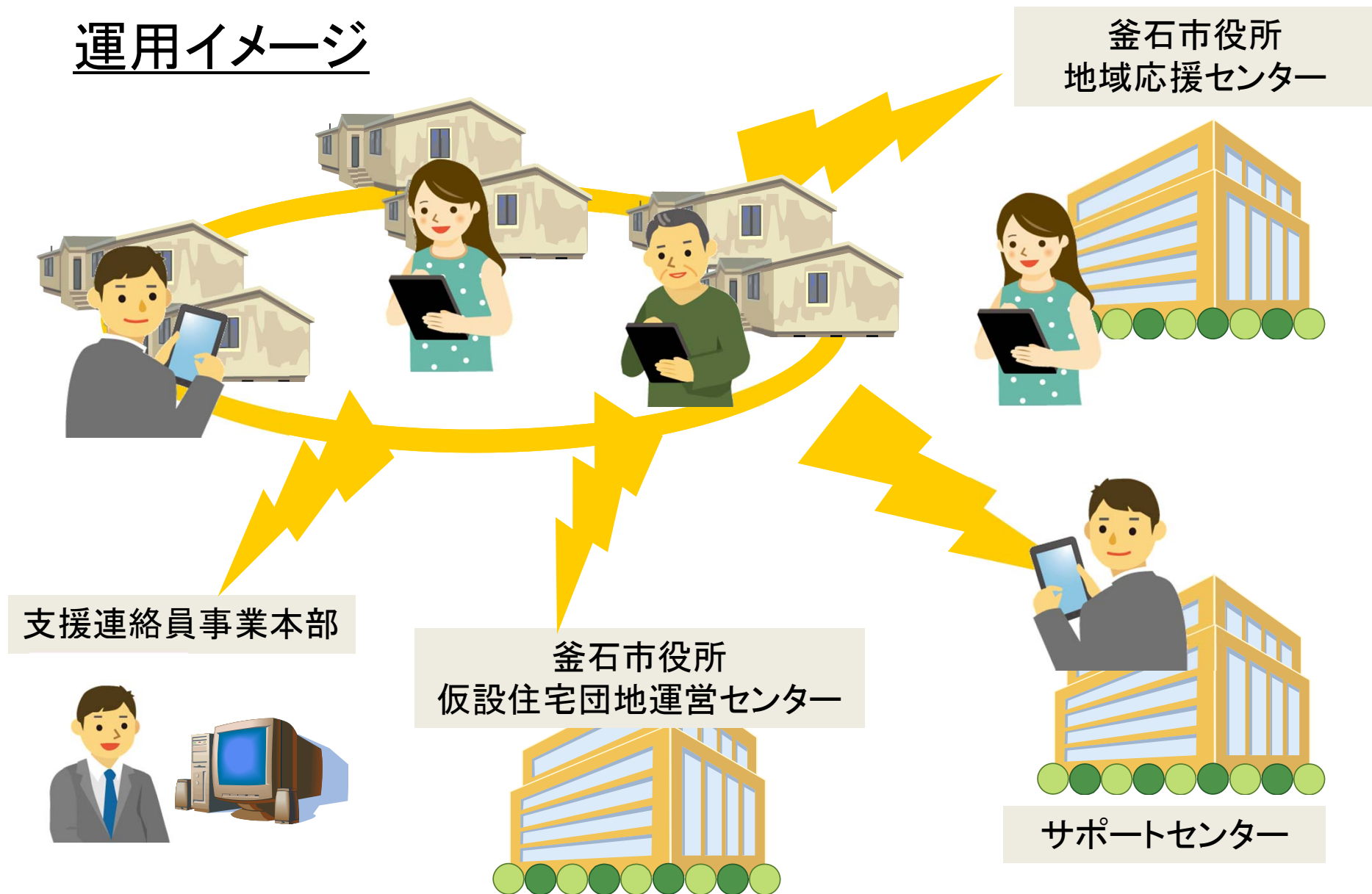
情報表示 予定入力 相談受付

戻る Kテクノ 太郎

Copyright 2012 Techno Mind Corporation All rights reserved.

13:24

運用イメージ



飯舘村への支援

みまもりセンター
A社

電話・警備員かけつけ

緊急通報

午前中に電話がない場合
電話で安否確認



利用者さん



きんきゅう

1

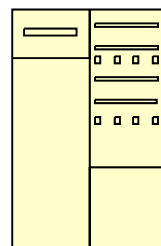
そうだん

2

げんき

3

“おげんき”発信
午前中



岩手県社協のサーバー
(岩手県立大学協力)

電子メール

別居親族等
(ご希望の方)

●●さんは
○時○分に
「げんき」と
発信されました



スマホによる見守り

アプリトップ画面



受信メールイメージ

ドコモ太郎さんのお元気情報

今日のお元気情報
 04月08日15時時点
 歩数: 0歩
 外出有無: あり
 ケータイ利用: あり
 体調: 元気
 電池残量: 56%

最近のお元気情報

日にち	歩数	外出	初回利用	体調
4/7	0歩	なし	1:38	未登録
4/6	2017歩	なし	0:42	元気
4/5	3047歩	あり	7:12	元気
4/4	5004歩	あり	0:50	元気
4/3	4195歩	あり	0:05	悪い
4/2	2292歩	あり	7:14	元気
4/1	2396歩	あり	0:12	元気

を活用した高齢者見守り
 ンの有効性評価 最終報告書

見守りイメージ



みまもり情報をメールでお知らせ

【見守られる側の方】

- ・日常通りスマートフォンを利用する。
- ・1日に1回、その日の体調を登録する。
- ・何かあった場合には、見守る側の方へ連絡する。

1.元気であることをお知らせ

- ① 1日に1回、定期的に歩数やスマートフォンの利用有無等のケータイ利用状況をお知らせ
- ② その日はじめてスマートフォンが利用されたとき
- ③ 歩数計の歩数が毎日の目標値を超えたとき

2.異変が起きていることをお知らせ

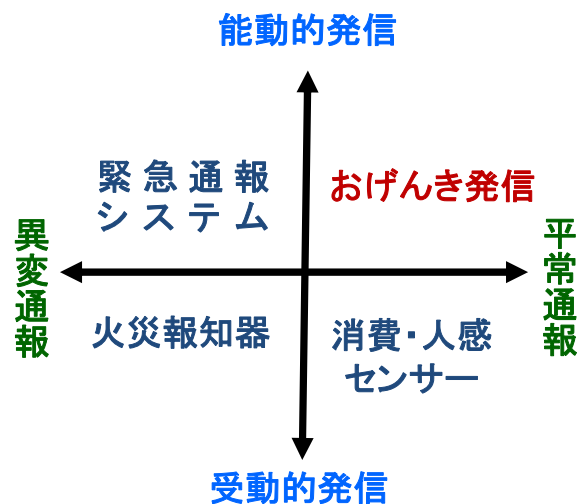
- ① 体調が「悪い」が登録されたとき
- ② 一定期間スマートフォンが利用されなかったとき
- ③ 電池残量が少なくなったとき
- ④ スマートフォンで大きな衝撃を検知したとき
- ⑤ 緊急連絡機能が利用されたとき

【見守る側の方】

- ・お知らせされる日々様子をメールで確認する。
- ・気にかかる時は見守られる側の方へ連絡する。

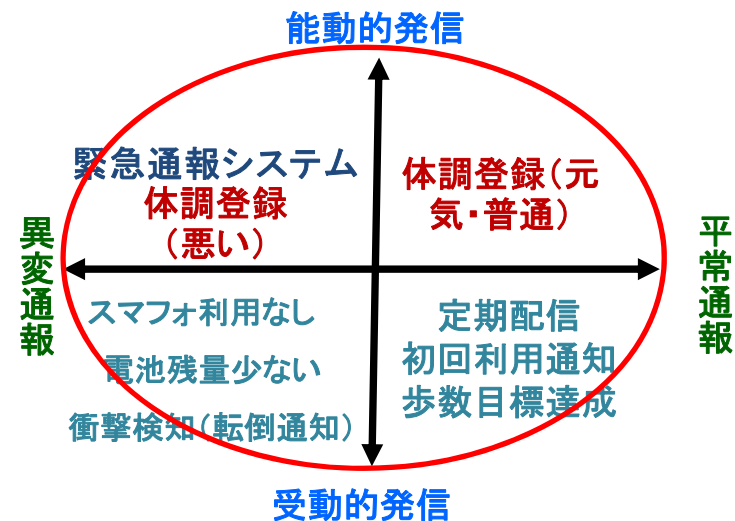
ICTを活用した見守りの位置づけと変化—高齢者の自己発信

図1. これまでのICT活用見守り
別々のサービスとして展開



出典) 小川晃子, 2013, いわて“おげんき”みまもりシステム
“みまもりさん”研修テキスト』岩手県社会福祉協議会。

⇒ 図2. スマフォによる見守りアプリの機能
一体型で選択できるサービスとして展開

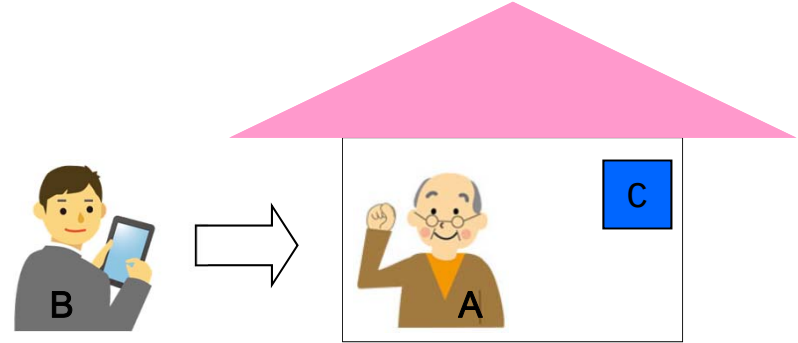


第5次「岩手県におけるICT活用孤立防止とコミュニティづくり」

ICT活用見守りネットワーク形成
見守りポータルサイトの構築

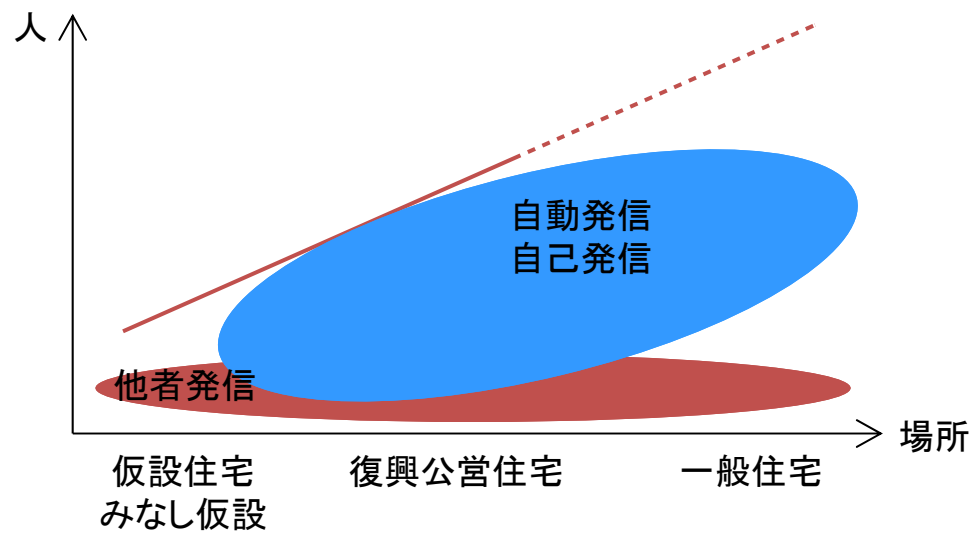
医療・福祉における見守りの連携策
血圧測定
看取り
自殺予防

見守りの区分



見守り対象者	発信者	自覚	区分	事例
A	A自己	あり	能動型・平常発信	おげんき発信
A	A自己	あり	能動型・緊急発進	緊急通報
A	C自動	無	センサー	人感・消費型(電力、テレビ等)センサー
A	B他者	無	他者発信	連絡員タブレット

自己発信・自動発信の必要性



(1) 対象が増えることで「他者発信」による見守りの限界
⇒ 自己発信・自動発信と組み合わせる

(2) 自立支援

(3) コミュニティ形成のきっかけづくり

見守りポータルサイト

【入力側】

自己発信・自動発信・他者発信の見守り情報を
統合化

【出力側】

インフォーマル(家族、近隣)、フォーマル(民生
委員、連絡員、協力員、サポートセンター・地域包
括支援センター・社会福祉協議会職員、保健師
等)の見守り者を、見守られる側個々に設定

3. ICTを活用した高齢者等の孤立防止とコミュニティ形成について

これまで得られた研究の成果

- 自立支援
- 異変把握の確実性が高まる
- 早期対処可能になる（認知症・自殺念慮等）
- 民生委員・生活支援相談員・仮設住宅団地支援連絡員等のみまもりの役割をもった職員の不安感が軽減する
- 生活支援策との連携
- 医療・福祉の連携
- コミュニティづくり

長期避難をしている 高齢者等の孤立防止のために

- 能動的な「おげんき発信」は、遠慮感を払拭し、見守られている安心感をもたらす。
 - ・岩手県システムは電話番号の登録のみで、どこからでも、どのような電話機でも使用可
 - ・既存システム・多様なデバイスでの「げんき」発信もある
- 24時間に1回、確実な安否確認をするためには「見守りセンター」機能が必要
 - ・社会福祉協議会、地域包括支援センター、仮設住宅サポートセンター等
 - ・緊急通報システムの委託先と併用も有効
- 「みまもりさん」への協力依頼
 - ・「おげんきさん」どうしの相互見守り
 - ・民生委員、生活支援相談員、仮設住宅団地支援連絡員等のフォーマルな見守り者
 - ・別居親族、近隣、友人等のインフォーマルな見守り者
 - ・近くに住む民生委員等を1人は登録しておくことをすすめる

- 心身の状況に応じて「おげんき発信」「緊急通報システム」「センサー」を使い分ける
 - ・心身が弱っている場合は「緊急通報システム」
 - ・認知症、視覚障害、聴覚障害の場合は「センサー」
- 多様なデバイスによる「安否情報」を地域福祉ネットワークのなかで共有する

情報リテラシー支援

- わかりやすい色・デザイン
- 簡単な情報発信からはじめる
- 「自分で発信する」ことの歓びを実感
- 発信する効果・価値を実感（みまもられる安心感等）
- 受信する楽しみをつくる（心あたたまる日替わり挨拶等）
- 一緒に取り組む仲間づくり（おげんきサロン等）
- 身近な支援者が、ゆっくりと何回も説明・支援
- 慣れたところで、新たな機能を段階的に追加



御静聴に感謝申し上げます。